

【理事会報告】

1999年度 日本村落研究学会 第3回 理事会 会議録

日 時 1999年4月17日（土）1：30～4：00

場 所 明治大学リバティタワー119JK（お茶の水）

出席者 相川良彦、安孫子 麟、荒樋 豊、池上甲一、大内雅利、大川健嗣、

大野 晃、熊谷苑子、ガボリオ・マリ、北原 淳、

黒柳晴夫、酒井恵真、杉岡直人、高橋明善、鳥越皓之、

河村能夫、徳野貞雄、中道仁美、細谷 昂、松岡昌則 (20名)

欠席者 木下謙治、小林一穂、渡辺 正、理恵子、嘉田由紀子 (5名)

I. 報告事項

1. 事務局報告

(1) 会員動向（詳細は後述参照）

新入会員（1名）

山下亜紀子 岩手大学連合大学院農学研究科 紹介者 武田共治会員

退会会員（4名）

石原豊美・斎藤京子・井上和衛・山下袈裟男・

住所不明会員（3名）

塩入力・大澤幸一郎・井上毅

(2) 郵便物の送料について

村研ジャーナルが、学術刊行物として正式認定（1999年2月）され、今後は機関誌は1冊60円程度で送付可能となる。

2 各種委員会報告

(1) 『年報』編集委員会

『年報』第35集の編集作業に関して、特集については、前年度大会テーマセッションを中心に行うことになり、大会当日の他の報告をも加えて原稿を依頼した。また、自由投稿についても、<「農村高齢化」および「地域福祉」に関する論文>というテーマで募ったところ、2本の投稿希望があった。今後、原稿の提出、編集委員会での原稿の読み合わせや査読、全体の編集、出版社との連絡などの作業を進めていくことになる。

(小林一穂 kazuho@mail.cc.tohoku.ac.jp)

(2) ジャーナル編集委員会報告

大内委員長：4月15日にジャーナル第10号が完成・納品された。現在11号を編集中である。

3. 学会賞選考委員会報告

安孫子委員長：現在、学会賞について論文の部と著書の部の2つに分離し、年齢の設定を分かりやすくして提案することを検討している。例えば著書の部は選考委員は3名、論文の部は選考委員5名ということではどうか。

学会賞の推薦候補が極めて少ないので、ぜひ積極的に推薦して頂きたい。

[推薦される場合は、安孫子委員長宛か、学会事務局宛にお願いします]

4. アジア農村社会学会（A R S A）について

鳥越委員長・北原会員：1月29、30日にバンコクで開催。参加総数は約100名。日本からは、報告者を含めて15～18名参加。学会会員の登録および規約も作成。次期会長を日本から出して頂きたい。会場は日本ではどうかという打診もあり。（関連記事後掲）

5. その他

関東地区研究会の開催について、相川委員より9月に関連学会との共催による企画が予定されている。村研として名前を連ねることに了承。

II. 審議事項

1. 第47回大会の開催について

大会実行委員会・事務局から

丹野朝栄大会事務局長説明：上記、大会関係記事参照。東洋大学社会学部社会学科として協力体制をとることで開催準備が進められている。（関係記事前掲）

2 I R S A特別委員会関係

岩本会員の特別委員会設置に関する意見書について

特別委員会の性格と位置づけについて明確な説明を通信に掲載する必要がある。

関係記事参照

3. 次期学会事務局

打診の結果、熊本地区（米沢会員を中心）にて引き受けさせていただくこととなった。

正式には総会で推薦了承の予定。

4. 研究委員会報告

大川委員より、2000年大会企画「農政の転換と村落」について提案説明があり、出席者から時期区分や地域偏差の問題、地域農業の視点、国際的視野における総括の必要性などの指摘があり、改めて提案を予定。

5. レター・ヘッド付き文書

会員の国際学会への参加および海外からの留学生に対する学会としての事務手続き上、フォーマルな文書が求められることがあり、簡易方式であるが、ロゴ+レター・ヘッドのあるA4サイズの文書見本と封筒見本を作成し、次回理事会で検討することとなった。

6. 理事選挙について

新制度により2期連続して理事となっている場合、今回は被選挙権がないことが確認された。総会での選挙時に明示することになる。

参考：理事の被選挙権をもたなくなる理事（二期連続経験者）リスト

大野晃、酒井恵真、小林一穂、大川健嗣、松岡昌則、荒幡豊、相川良彦、池上甲一、黒柳晴夫、嘉田由紀子、徳野貞雄（敬称略）

7. 研連のエントリーについて

第一順位は社会学研連、第二順位は農業経済学、第三順位は経済史学として登録する。

8. 予定されていたその他の議題について

会費の値上げ・第50回大会企画については、審議時間不足のため次回の理事会にて検討することとなった。